

## 「OPI テスターへの挑戦で学んだこと」

清水昌子

テスターの資格を取った直後の気持ちは、運転免許を取得した時の気持ちと似ています。「免許が取れて嬉しい」、「でも運転はまだまだ下手で怖い」という不安と喜びが混ざった様な感覚です。私が OPI のテスターに挑戦しようと思った理由は、教師力をアップしたい、日本語教師として専門性を身につけ、付加価値を高めたいと思ったことですが、テスターへの挑戦をきっかけに、確実に自分の中で学習者の発話に対する意識が変わり、望んだ以上の経験や気づきを得ることが出来ました。

OPI はワークショップから Certificate を受けるまでに約9ヶ月ほどの期間がありますが、この9ヶ月間は私にとっての財産となりました。まず4日間のワークショップでテスターを目指す素敵な仲間と出会い、嶋田先生の指導の下で OPI について学ぶ時間は濃密で充実した夢のような時間でした。気がつけば最終日になっていたことを今でも覚えています。ワークショップの後は、個々で練習ラウンド、認定ラウンドと続きますが、私もテスト探しには苦労しました。ですが、なかなか見つからなくて途方にくれていた時、所属先の先輩や友人、OPI の同期が助け舟を出してくれました。不安でどうしようもない時に、“大丈夫です！”という一言にどれだけ救われたか分かりません。私個人の資格取得のためにこれほど多くの方に助けられた経験は他になく、周りに助けて頂くことの有難さを痛感しました。

また、テストの皆さんは仕事や勉強に多忙な中、一人の例外もなく、好意的に協力してくれました。初球から超級までレベルに関係なく、30分という時間枠の中で、出来るだけ自分の意見や経験を話そうと務めてくれました。むしろ私の方が、疲れや睡眠不足で頭の回転が鈍かったり、インタビューの表面的な進行のことが気になりすぎて、じっくり聴く姿勢ができていなかったり、せっかく良い話題を提供してくれていても、その内容を掘り下げるような質問が出来なかったり、なぜか自分の日本語が変になっていたりと、今思い出しても失敗例をあげればきりがありません。実際の OPI では、評価されるのはテストである学習者ですが、同時にテスターである自分自身も、日本語力やコミュニケーション能力、もっと言えば人間力を試されているような気がするのが OPI の面白いところだと思います。そして、その様な能力は一朝一夕にレベルを上げることは難しく、否が応でも自分自身と向き合わざるを得ません。この点で、OPI が長期戦の資格であることに、意義深さを感じました。インタビューはやり直しがきかない一期一会であり、時に反省と後悔の念が嵐の様に襲ってくることもあります。失敗

を糧に次につなげる精神的な強さも必要ですし、この9ヶ月間を通してじっくりと内省し、OPIを通して得られる様々な経験や知見を得ることで、テスターになる訓練は実に多様な角度から行われているのだと痛感します。

今、振り返ってみて、OPIのテスター資格にチャレンジして本当に良かったと思います。長期にわたり嶋田先生が絶妙なタイミングで声かけやサポートをしてくださったことも大きな支えとなりました。苦勞したからこそ得られたものもありますし、短いインタビューを通してスティーの方の人生観や世界観を垣間見られるのもOPIならではの楽しさだと思います。そして、何度も「長期」と書いた後で言うのも心苦しいのですが、過ぎてみればあっという間の9ヶ月間でした。これからはOPIの技術を活用し、長期的な視点で自己成長できるように努力することで、常に教師力をレベルアップしていくことが目標です。また、時には右往左往しながらも、貪欲に学ぶ姿勢を忘れずに、研鑽を積んでいきたいと思っています。

2015年11月15日